

〈せきれいのみち一部(早渚公園～春雨橋)工事に関する現地見学会〉 〈緑道ガイドラインヒアリング意見交換会を開催しました〉

都筑土木事務所では平成30年度末までに「せきれいのみち(早渚公園～春雨橋間)」の工事を予定しております。昨年度に行った基本設計の意見交換会を踏まえ、今回は地域のみなさまと工事予定区間を一緒に歩く現地見学会を開催しました。また、あわせて緑道ガイドラインヒアリングに対する意見交換会を開催いたしました。

日 時： 平成30年2月24日(土)午後1時30分～ 5時00分

場 所： 場 所:せきれいのみち(早渚公園～春雨橋間 仲町台駅前付近)、仲町台地区センター

参加者： 地域のみなさま16名

【当日確認したこと】

(1) せきれいのみち(早渚公園～春雨橋)現地見学会

- ・舗装路面や園路灯照明など老朽化施設の改修を行う。
- ・水路横断部・側溝部など排水施設の清掃や改修を行う。
- ・樹木の剪定や緩衝帯としての法面林の林相改善を行う。
- ・階段の手すりの設置や車止め間隔に配慮した撤去・再設置を行う。
- ・早渚2号調整池上部は健康遊具の設置、土留めの設置を行う。

(2) 緑道ガイドラインヒアリング 意見交換会

- ・ 緑道再整備ガイドライン策定に向けて実施した16団体へのヒアリング調査結果報告と意見交換を行った。
- ・ 皆様のご意見を取り入れるため今後の進め方を見直した。
春頃、素案として考え方を示し、それに対しご意見を伺い、秋以降に案をまとめ来年度一年かけて策定する予定。
その中で再整備工事箇所を中心に現地見学会も予定している。
- ・ ヒアリング結果の要旨を整理し表としてまとめたほか、想定される利用者像を具体化し、その傾向を分析した。
- ・ 緑道の利用の仕方(散策、通勤等)によって緑道に求める要素は異なるものの、緑道の路線や区間ごとに傾向は異なることから、各ゾーンの特性に応じた方針を検討していくことを確認した。

【当日の様子】



～せきれいのみち～
実際に現地を歩き、工事について認識を共有する。



～仲町台地区センター～
緑道について、意見交換を行う。

(1) せきれいのみち一部現地見学会	
【いただいたご意見】	【回答】
■全体について	
・大切な時間を使った見学会であるので、ぜひ話題になった事項は検討頂き、基本コンセプトの参考にしてください。	・頂いたご意見は(仮称)都筑区緑道再整備ガイドライン策定の参考にさせていただきます。
・バリアフリーの問題など非常によくわかりました。現地を見て初めてよくわかるので有意義な会だと思った。町内会代表者が思いのほか少なかったのが残念です。もっと連合町内会に声をかけていただきたい。	・引き続き自治会町内会の皆様にも情報提供に努めてまいります。
・建設当時は散歩程度の道路と考えると作ったと思う。年々生活環境が一変する、これからは生活の中の道路と考え、改造する時は、現在の生活感を取入れて改造してほしい。	・現在の利用状況を含め、将来的な推移を視野に入れ考えていきます。
・前回の見学会、ヒアリングを受けて、見直すところは見直しており良い方向で進めていると思える。特にスケジュールに対しては十分見直し、2段階で進めるというのでそれを期待する。	・引き続き皆様のご意見を反映しながら策定を進めてまいります。御理解と御協力いただきますようお願いいたします。
■樹木について	
・早淵公園から春雨橋間の樹木剪定状況は良いと思う。	・ありがとうございます。
・中学校東側の法面林は民地への目隠しが必要ならば、中木の植栽も考えてみてはよいのではないか。	・住宅の側は緩衝林としての機能がある一方で、見通しの確保など防犯上の観点もあることから、当面は現在植栽されている樹木を中心に考えます。
・中木が茂って死角になる懸念がある。何となく目線を遮るものの方が良いのではないか。	
・中学校からやまどり公園までの緑道沿いの並木(ケヤキ等)の民地への日照や枝落ちが懸念されるのであれば、民地側だけ剪定すれば良いのではないか、夏の日差しを考えればトンネル状もいい。	・緑道としての緑陰と周辺住環境との調和を考えた管理方法を検討していきます。
・緑を大切に、自然樹形を守ってほしい。	
・強剪定された樹木はまるで魚の切り身のような。子どもに本来の姿を伝えられるよう自然樹形を残して欲しい。	
■階段の手すりについて	
・中学校東側広場の既存の階段手すりは太いからかスケートボードをぶつけられている。	・手すりについては当初のデザインを尊重しつつ、バリアフリーに配慮した形態とします。また、手すりは両側に設置することとします。
・既存階段手すりの雰囲気がいかが握るには太すぎるように思う。	
・手すりは片側だけではなく、利き手やハンディキャップの状態にもよるので、両方にあった方が良い。	
■ベンチについて	
・中学校東側広場の階段・スロープ前にある石ウォール(ベンチ)は休憩スペースとして高齢者には助かっているが、汚れていると座るのを躊躇する。	・既存の施設については適宜洗浄等を行います。・今回の工事区間では、すでに十分に設置されていることから新規の設置は予定していませんが、今後の整備区間において、ベンチ類が少ない区間については増設を検討します。
・緑道は長いのでベンチなど一時休める場所がもっとあるといい。	

(1) せきれいのみち一部現地見学会	
【いただいたご意見】	【回答】
■車止めについて	
・車止めは散策中のベンチ代わりにしているので現状の高さのままとして欲しい。	・車止めの高さは現状のままを予定しています。
・早淵第2調整池階段下の脇道は車椅子が通れるようにはした方がいいが、一方でバイクの通り抜けがみられ危険を感じる。車止めの改修ではバイクの通り抜けに配慮してもらいたい。	・車いす等の通行に配慮しつつ、バイクの通り抜けに配慮した配置とします。
■照明について	
・LED電球まぶしさは人体に影響があるのではないと思うほどまぶしく感じる。	・LED電球のまぶしさを緩和できる技術的な方法を検討してまいります。
■その他	
・中学校東側広場の階段左側の民地のコンクリートブロック擁壁が目立っている。植栽等による修景を働きかけてほしい。	・民有地の植栽等については土地所有者のご判断になりますので、土木事務所としての働きかけは困難です。
■今後について	
いただいたご意見をもとに土木事務所で検討し、今後の工事の参考とさせていただきたいと思います。	

(2)緑道ガイドラインヒアリング意見交換会について

- ・ 永続するガイドラインを確立する。植木についても長期的な展望で植栽する。
- ・ グリーンマトリックスをほこりに思い、緑道を大切にしたい人の思いが聞けてよかった。「文句を言う人に対して、いちいちそれに耳をかたむけるようなあり方はやめたほうがいい」という考え方を次の土木の担当の方にもぜひ伝えてください。
- ・ カイドラインを検討されてた後も何回かの見直しも必要になるので見直しの取り組みを行ってください。
- ・ 土木のやること、地域のやれることと両方の意見があり、今後もヒアリングを続けていい方向に。
- ・ 魅力アップ協議会に情報提供や会議に参加して市民の声を聴く態度をすすめてください。
- ・ 町内会役員だけでなく一市民として、何ができるか検討しました。街づくりに若くともできることに参加したい、緑道は我々の街の誇りです。
- ・ 各住民からの意見は無限に広くなり、それをまとめていく事は大変な仕事だと思う。
- ・ 最終的に再整備工事に入るためには、先ずは今までヒアリングしてきた内容を基に、土木事務所としてのコンセプトを明確にすることが大切と考える。
- ・ 既に工事を開始している所があるとの説明を受けましたが、その時の事務所のコンセプトを説明してほしかった。大きく考えれば、その時と大きくは変わらないと思います。
- ・ ガイドラインの考えに時間軸を組込むのは良いと思う、固執するのではなく10年20年で状況に応じて修正してほしい。

■自転車についての意見

都筑土木事務所では緑道内の歩行者と自転車の通行について「都筑区自転車・歩行者安全推進事業計画」を策定し、緑道内においても迂回する道路がなく、緑道の自転車通行が避けられない一定の区間について「自転車通行可能なルート」として設定し、今の既存の施設を活かしながら、路面に点線シートの貼付けや自転車の通行マナーの啓発などを通して“ゆるやかな分離”に取り組んでいます。

- ・ 幅員を広げて自転車レーンを造るのか、それともマナー向上を促していくのか。
- ・ 仲町台へ向かうラッシュ時の流れは一方向のみで歩行者と自転車はお互いに暗黙の共通認識が出来ている。
- ・ ラッシュ時は一方向ではあるが追い抜く時、自転車はスピードを出すので何度も怖い思いをしている。今後も接触事故の危険性は高い。
- ・ 自転車を乗る人にマナーがないとやっても効果がない、自転車禁止のサインの横を堂々と走っている。サインだけではなく、オランダの自転車専用レーンのような完全分離をする必要があるのではないかとマナー向上を期待するのではなくハードでの解決を追求してもらいたい、緑道は時代に合わなくなっている。
- ・ 自転車レーンを作ると20年後人口減少が進んだ時に何故これを造ってしまったのかという事になりかねない。点線レーンぐらいでよい。けれども、自転車の点線レーンがあるおかげで自転車利用はお墨付きをもらったとスピードを出されるのが困る。あくまでも緑道は歩行者優先であることを周知してもらいたい。なぜ歩行者が道を譲らないといけないのか。
- ・ 皆、緑道は歩行者優先であるものと認識していないのではないかと。
- ・ マナー問題で一番有効なのは人の目、マナーを気にするためには人の目を増やすと効果的。
- ・ 自転車のマナーの改善は子供からアクセスするのは効果的子供から親に言えば親も良くなるかもしれない。
- ・ 自転車は減ってもなくなることはなくマナー問題も解決困難、自転車と歩行者は完全分離した方がよい。
- ・ 自転車レーンをつくるためには歩行者と合わせてある程度の幅員が必要となる。今の緑道でそれは出来ない。せせらぎに蓋をして、幅員を確保すれば可能になるのではないかと。文句は出ないだろう。
- ・ せせらぎを暗渠（せせらぎに蓋をかけた水面が見えない状態）にするのは反対。
- ・ 歩行者と自転車の「ゆるやかな共存」を目指して頑張ってください注意看板はできるだけなくしてほしい。

【今後について】

- ・ 緑道利用者の意見が多様である事、ゾーニングによって解決する必要がある事を確認出来た。今後、現地見学会や意見交換会を重ね、考え方をガイドラインにまとめていきたい。